

2024年5月15日(水)第三水曜祈祷会

出エジプト記28章1～43節

『いのちをかけて主に近づく者』

【聖なる装いをして 28章前半】

- ①イスラエルにおける最初の大祭司は、モーセの兄()。アロンの子孫が祭司となる。
- ②大祭司アロンは、主の栄光と美(権威と身分)を表す()を身にまとった。
- ③大祭司が聖所で着ける六つの聖なる装束(胸当て、エポデ、青服、長服、かぶり物、飾り帯)。
- ④二つの肩当てには、イスラエルの六部族ずつの名が刻まれ()の代表を意味する。

【28章の観察と黙想】 *祭司とは、神と人との間の仲保者。

1. さばきの胸当て(28章15～30節)

- ①エポデの上に着用するさばきの胸当ての十二個の宝石は何を表していますか。
→
- ②大祭司アロンが聖所でする奉仕は何ですか。
→
- ③さばきの胸当てに入れている「ウリムとトンミム」は何をするものですか。
→

2. 青服、純金の服とその他(28章31～39節)

- ①青服の裾周りにざくろと金の鈴をつけるのは何のためですか。
→
- ②アロンが「(イスラエル)のすべての献上物に関わる咎を負う」とはどういうことですか。
→
- ③「市松模様」の長服とは、どのようなものですか。
→

3. アロンの子らのための長服など(28章40～43節)

- ①アロンの子らのための長服、飾り帯は、何を表していますか。
→
- ②祭司として神に仕えるためには、何が必要ですか。
→
- ③アロンとその子らが聖所で奉仕する時、なぜ規定の祭服を着なければならなかったのですか。
→

【適用と分かち合い】

- ①今日の私たちは、万人祭司としてどんな使命がありますか。
- ②イエス・キリストが大祭司であるということは、どんな意味がありますか(ヘブル7:25)。